

## 信越 岩菅山

田村

【日時】 2007年12月23日(日)～24日(月・祝)

【メンバー】 L田村、山川、大野、浅井、西井

今回は、本来年末山行の予備として計画したものだったが、西井さんが加わって、新人歓迎と初級雪山訓練も兼ねた山行になった。

### 12/23 曇り時々晴れ

湯田中の道の駅で仮眠、朝は順調に8時半頃入山口あたりに着いた。が、そこで失敗したのは、ホテル管轄の駐車場に止めようとしてしまったことだった。車整理のお兄さんに一晩置きたい旨話をしたところ、相談してくると言う。だいぶ待たされて、ようやく戻って来たと思ったら、「置いてもいいが、警察に届けを出してくれ。警察に『こういう人たちが行くから』と連絡した」と言うではないか。仕方なく車で10分も戻って届けを出し、出発は結局10時になってしまった。

一之瀬からは旧道をしばらく辿り、岩菅橋まで。雪が少なく、つぼ足で行ける。夏道コースは渡渉がありそうなので、西尾根往復として尾根に取り付くことにした。

足回りは全員スノーシュー。今回はこれを試すのが最大の目的だ。西井さんにも履いてもらった。最初はみんな初めての道具なのでぎこちなかったが、すぐ慣れた。これはワカンと思わず、スキーの感覚で使うのがよい。ある程度急になったら、直登ではなく斜登行にする。蹴りこんでもあまり効果的でない。

今日は、上はガスっているものの、とても穏やかで春のように暖かい。とは言っても、西井さんがTシャツ姿になったのには一同ビックリ。トップを任せると藪に突っ込んだり木の根元の穴に嵌ったりしてドツボっている。しかし、普通の人ならバテバテになってしまうところなのだが、こけたりもがいたりしながらも平気な顔をしている。まさに若さとパワーが体中から発散されているという感じだ。パワーのベクトルがうまく噛み合ったら、とんでもない馬力を発揮するに違いない。

出だしのロスがあったので、1900mの台地に着いたときは13時30分だった。頑張ればもちろん山頂まで行くことはできるが、途中に天場適地はない。山頂の小屋が使えるかもわからない。そこまで頑張る意味はなく、むしろ西井さんにビーコン操作やテント生活など雪山の基本技術を伝えるためにも、ちょっと早いけどここで泊まることとした。

### 12/24 雪

朝は一瞬山頂が見えていたが、すぐに見えなくなってしまった。ともかく山頂は踏もうと出発する。訓練なので、荷物は全部背負って行った。次第に傾斜が出てきて、藪が濃くなってきた。しかも針葉樹が多く、間を抜けようとすると、かなり深く嵌ってしまう。右へ行ったり左へ行ったり、苦勞して高度を稼いでいくと、約2時間半、

ようやく南からの稜線に出ることができた。このあたりでは木が低くなり、風雪もやや強く感じられる。さらに一息の頑張りで、山頂に着いた。ここの小屋は埋まり、煙突しか見えない。何も見えないので、記念撮影もそこそこに下山にかかる。消えかかったトレースを慎重に辿り、もと来た道を引き返した。

【行程】 12/23 一之瀬(10:00)～岩菅橋(10:50)～1900m台地C1(13:30)  
12/24 C1(7:05)～岩菅山(9:45)～岩菅橋(11:50)～駐車場(12:50)

【地図】 岩菅山



風雪の中、岩菅山山頂に立つ



今回使ったスノーシュー (MSR ライトニングアッセンスト)  
とても歩きやすく、本番の白山でも大活躍しました。